【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第２区分
【発行日】平成28年6月2日(2016.6.2)

【公開番号】特開2015-103564(P2015-103564A)
【公開日】平成27年6月4日(2015.6.4)
【年通号数】公開・登録公報2015-036
【出願番号】特願2013-241108(P2013-241108)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｆ　17/00　　(2006.01)
Ｈ０１Ｆ　41/04　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｆ　17/00　　Ｅ
Ｈ０１Ｆ　41/04　　Ｃ

【手続補正書】
【提出日】平成28年4月7日(2016.4.7)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
可撓性の基板上に連続な繰り返し配線パターンを有し、前記基板の長手方向と垂直な方向の前記配線パターンの配線部分が、前記基板を該基板の長手方向に折り曲げることにより形成される山部または谷部に配置するように、前記基板を折り曲げることで構成されたことを特徴とするコイル素子。
【請求項２】
請求項１記載のコイル素子であって、
前記山部および谷部は、９０°以下で複数回折り曲げ、合計１８０°となるように折り曲げることで構成されたことを特徴とするコイル素子。
【請求項３】
請求項１記載のコイル素子であって、
前記山部は９０°づつ２回山折りして折り曲げ、前記谷部は９０°づつ２回谷折りして折り曲げることで構成されたことを特徴とするコイル素子。
【請求項４】
請求項１から３のいずれか１項に記載のコイル素子であって、
前記配線パターンは、矩形波状であることを特徴とするコイル素子。
【請求項５】
請求項１から４のいずれか１項に記載のコイル素子を互いにかみ合わせるか、並べて構成した１組のコイルからなることを特徴とする磁心内磁界測定用Ｈコイル素子。
【請求項６】
請求項５記載のＨコイル素子を、固定子を励磁する励磁磁界を検知する方向に取り付けたことを特徴とするモーター。
【請求項７】
請求項６記載のモーターであって、
前記検知する方向は固定子軸方向であり、前記モーターはアキシャルギャップモーターであることを特徴とするモーター。
【請求項８】

請求項６記載のモーターであって、
前記検知する方向は固定子軸方向と垂直な方向であり、前記モーターはラジアルギャップモーターであることを特徴とするモーター。
【請求項９】
請求項４に記載のコイル素子であって、
前記基板を前記矩形波状の配線パターンにそって打ち抜き、該基板を折り曲げることで形成する中心部に開口部を有することを特徴とするコイル素子。
【請求項１０】
請求項９に記載のコイル素子を２つ組み合わせて、それぞれを挟み込み、前記開口部を共通部として磁性体コアをはさんだことを特徴とするトランス。